

第1回府中市生物多様性地域戦略検討協議会

日時 平成26年6月27日（金）午後3時～5時

場所 北庁舎5階食堂会議室

出席者：石坂、大澤、堅山、小池、紺野、佐藤、新島、野口、野澤、春山、松原、山田、吉川委員 13名

傍聴者：1名

事務局：今坂生活環境部長、角倉公園緑地課長、加藤環境政策課長、青木課長補佐、
高橋自然保護係長、尾池

青木課長補佐の司会で進行

1 依頼状の交付

2 市長挨拶

3 委員及び事務局自己紹介

各委員の自己紹介をし、その後事務局の自己紹介をした。

4 会長及び副会長選出

山田委員より会長に吉川委員、副会長に大澤委員の推薦があり、賛成者多数で選任した。

5 依頼書伝達

高野市長から会長に伝達した。

各委員には依頼書の写しをその場で配布した。

高野市長退席

ここからは会長の司会で進行

事務局より会議の公開について説明

傍聴人の入室の了承を得て傍聴人入室

(1) 府中市生物多様性地域戦略検討協議会の概要説明

事務局より資料1、資料2について説明

<委員> 2条の(1)に「法第2条第1項に規定する生物の多様性」とありますが、生物多様性といった用語などについて、協議会で共通の認識を持った方が良いと思います。

<事務局> 後ほど事務局よりご説明します。

(2) 府中市生物多様性地域戦略について

事務局より資料3について説明

(3) 策定までのスケジュールについて

事務局より資料3について説明

(4) その他

<会 長> 本日決めなくてはいけないことはないのですが、皆さんの普段の活動の紹介と計画に入れた方が
良いことを述べていただき、理解を深めたいと思います。

私は、ポイントは4つあると思います。1つ目は、基本的な考えとしては、5年間の素案と
したいと思います。COP10の愛知目標の目標年は2020年で、5年の素案とすると2020年
が目標年となります。11月までに作成するので短期的な計画がよいと思います。情報や活動
を集めて、次につなげるようにしたいと思います。

2つ目は、今までの上位計画などは大きな目標を定めてから細かい施策にしていました。今
回は具体的に何をするかを定め、現在行っていること、小さなことをリストアップしたいと
思います。アイデアを出していただいて実行性のある計画にしたいと考えています。

3つ目は、緑の基本計画や環境基本計画などの上位計画に書かれている多様性に関する施策
などを洗い出し、盛り込みたいと考えています。

4つ目は、生物多様性地域戦略策定の手引きには、直接生物に関するだけでなく、文化
財や環境教育、産業振興、消費行動、防災など広い分野と関連付けた戦略をと書かれてい
るので生き物だけでなく広い分野と関連させたいと考えています。各委員から現在行っている
活動の紹介をお願いします。

<委 員> 浅間山は、戦時中は陸軍によって使われており、以前は農家の生活に密着していました。落
ち葉は肥料に、樹木は燃料に使われ15年のサイクルで循環していました。下草刈のあと、落
ち葉かきを行い、よい環境を維持していました。近年は手が入らず、荒れた環境となってい
ました。昭和57年に緑化推進委員が環境を復活させようと発足しました。

現在では、当初の目標は達成しました。大勢の方に知ってもらうためのPR、理解を深めて
いただくようにしたいと考えています。勤めている方にも参加していただくために月に2回、
土日に定例作業をしています。キスゲなどが咲く時期に合わせて下草刈を実施しています。
自然に合わせた管理と公園としての管理との折り合いを模索しています。

団体は地域の協力によって成り立っています。費用がかかります。賛助会員として周辺町会
にも入っていただいています。5月のキスゲフェスティバルや春・秋の清掃、市のイベント、
小中学校への環境教育など地域への貢献も考え活動しています。

<会 長> 浅間山公園は、生物多様性のホットスポットで、市内に確認されている800~900種のうち
300~400種があります。こういった管理をしていくのがポイントだと思います。

<委 員> 東京都の地域戦略のまとめ方は、生き物にフォーカスして新たに策定したというよりは、既
存の緑施策に生き物の視点をプラスしてとりまとめたものです。策定時と知事が代わりまし
たが、長期的な方向性としても、みどりに関しては量の確保とともに生物多様性の保全など
質を上げていこうと考えています。情報共有などを通じ技術支援などが実施できればと考え
ています。

<事務局> 府中市生物多様性地域戦略も緑施策の新展開と同様の考え方です。上位計画の中から施策を集めて、多様性という言葉が伝わらなかった点についても合わせて考えています。地域戦略について資料3の説明をもう少し時間を頂いて事務局より説明いたします。

事務局より資料3について説明

<委員> 都立公園の指定管理者をしています。浅間山公園は生物多様性のホットスポットとして、市民団体や東京農工大学などと協力して「浅間山を考える会」という保全のあり方についての懇談会をしています。

生物多様性向上のためのポイントは3つあります。1つ目は、パークレンジャーによる環境の向上、生態系の回復、モニタリング調査のデータベースをもとに計画を作っていきます。

8公園19ヶ所で特に生物多様性スポットを設定しています。2つ目は、普及啓発活動で、総合学習や小さな図鑑作成などです。3つ目は、パートナーシップによる保全です。行政、企業、学校、市民などと協力します。これらの3つの軸で進めています。

都立公園や市という枠組みを越えたところで一緒に考えていきたいです。府中市には樹林地、河川、畑地など多様な環境があります。横のつながりの中核が必要だと思います。

<事務局> 東京都西部公園事務所と協議をしています。協議により、浅間山南側の約5,000㎡を浅間山公園に編入いたします。樹林地を提供する道筋が立ちましたので、この場を借りてご報告いたします。

<委員> 企業の環境活動を担当しています。生物多様性基本法で企業の活動も求められています。事業所の周辺は府中市緑の基本計画の地図では、真っ白な状態です。ここに緑の拠点があると中継点になります。コンセプトは、「緑のネットワーク」と「武蔵野の森の再生」です。

活動としては、ケヤキなどの植樹を授業とマッチングしているので小学校5年生と行いました。また、井戸水を貯めて池を作りました。トンボの観察情報をホームページに載せています。専門家に調査していただいたところ、東京都のレッドリスト掲載種28種と指標種2種が確認されました。地域の皆さんと一緒に森づくりをしています。自然の恵みがあったからこそ持続可能な社会の実現を目指す活動に取り組んでいます。月に1回自然観察員によるモニタリングをし、写真などで記録しています。工場の中の「いきもの図鑑」や標本なども作製します。

今後は、会社の中だけでなく地域と連携して、サントリーやNECなども活動をしていると思うので、橋渡しをしていただきたいです。

<会長> 府中市には大きな土地の事業者が多いので同時に取り組みたいです。

<委員> 四谷小学校はグラウンドの80%が芝生で周辺には川などもあります。体験活動、たとえば農業体験、稲刈り、しいたけ栽培、水辺の楽校など多くあります。体験からこれからの考える実践力をつけていきたいです。体験だけでは終わらずに、エネルギーや緑のカーテンなどをどう進めるのか、広めるか、大人になったあとは何ができるか、どう関わっていけるかを考えたいです。武蔵台公園では清掃活動をし、その後ポスター作成を続けています。そういっ

た活動も紹介できたらと思います。

<会 長> 学校の教材としての利用、雑草などを教材として利用してはどうでしょう。小学校の3, 4年生は多摩川などで教わったことが本当だと気づく、五感でキャッチできる、こういう視点もよいです。

<委 員> 府中市では農地を守る施策をしているので緩やかに減少しています。減ってはいますが身近にあります。昔は一回作物を作った後、一度休ませていたが今は高生産で土地が酷使されています。土壌の生物や雑草が減っています。生物の多様性は少ないかもしれないが、広い面積、空間があります。夏はコウモリや鳥が降りたり、ネコが来たりします。野生生物にとってのオープンスペースです。昔は雑木林と畑のリンクがありました。それを都市の中でも復活したいです。最近では落ち葉の発酵臭や農薬の臭いも指摘されます。ネズミやモグラも通報されてしまいます。

<会 長> 本来の営みを実感しないで生活できる現代で生物多様性とどのようにつなげるかが大切だと思います。

<委 員> ごみを減らしたい市と循環型を実証したい農工大と良い堆肥がほしい農家が各々の利益のために活動しています。15年前の取組みは農家が事業に入っておらず、堆肥として使えなかったため失敗しました。5年間堆肥化資源について取組み、農家から逆算してデータの蓄積もできました。小学校の残飯を堆肥化し、それで育てた作物を給食にするサイクルも2年半前からしています。これらのサイクルを続けていくのは、行政の予算のこともあり現実的には難しい問題かもしれません。

<委 員> 府中かんきょう市民の会は、15, 6年前の環境基本計画の検討会から始まりました。自然環境に関しては、多摩川で月に一度、花・つばみ・果実の調査を5, 6年しています。植物は300種ぐらいあり、そのうち外来種は40%程度、面積で言うと80%ぐらいあります。多摩川の河川敷にレンリソウがあります。国交省が草刈で全部刈ってしまうので、6, 7年前に自分たちで管理すると申し出ました。400㎡を柵で囲い、年に2回、6月と11月に草刈をしています。今ではレンリソウは500株ほどの花が咲き、他の野草も豊富にあります。しかし、特定の市民団体が柵を設置するのはまずいと言われ困っています。今はまだ継続していますが、できれば市が借りて市民団体が管理をしたいです。

<会 長> 協議会の取組みとしてサポートする体制も必要です。

<委 員> 以前は緑の活動推進委員で25名ほどいましたが、深度の深いものということで2年前に自然環境調査員会議が発足しました。他ではしていない崖線、武蔵台公園を対象に植生を勉強しながら活動しています。地域の安全のために急に木が切られてしまいます。役所内での横のつながりが大切だと思います。子どもたちには、水辺の楽校を6つの小学校でしています。農家の方と一緒にビオトープを作り、PTAに管理してもらっています。サントリーにも協力していただきました。少しでも横のつながりと活動の宣伝ができれば良いなと思います。

<委 員> 府中野鳥クラブができて32年になります。30周年のとき多摩川、霊園を中心に30年間の取組みを冊子にまとめました。ツバメやカモ、ヒバリなどの調査を行っています。

16年間調査していますが、総個体数は多摩川で半分、霊園で30%減っています。特にスズメ、

カルガモが減っています。年中工事がされており、砂地、草地が減少してカルガモが巣を作りにくくなっています。作ってもカラスにやられることもあります。武蔵野の森公園の修景池ではカルガモが子育てをしているが、多摩川では繁殖環境が減り、少なくなっています。霊園では、除草剤により植物、昆虫、鳥に影響が出ています。今でも改善されていません。四谷小学校の前で毎年ツバメの市民観察会と年2回アレチウリなどの駆除をしていますが、高齢化のため大変になってきました。今後どのように維持するのが課題です。30年間の活動で市から功労賞を頂きました。環境をどう回復し、次の世代につなげるか、これに重点を置いて環境教育として巣箱作りなどもしていますが、浅間山の回復によって鳥にどう影響するのかに取り組みたいと考えています。

<委員> 現状を聞いて思うことがありました。郷土の森公園と多摩川の近くに住んでいます。せっかく環境保全や維持管理が大事とわかっているのにお母さんたちに虫や鳥が苦手な人が多く、過敏に反応して子どもに触ってはいけないと言います。環境を整えていこうという中で、子どもたちが離れてしまっただけでは仕方がないと思います。害虫を見分けながら観察会などの中で触れていければと思います。用水の親水公園化によって水に触れられる環境にはなっています。

<委員> 近所の3～4mのスズカケノキが切られてしまいました。アレルギーや落ち葉などありますが、地域での対応があるのではないかと疑問があります。

<委員> 都市内の断片化した森林が生物にどう影響するのか研究しています。生の情報が多く蓄積されているが、集約されていません。今後保全する上で、集約するシステムがあれば、現状を把握しやすくなります。環境教育でも直接関わっている実感があります。府中市には生態系の多様性があるので、全体としての多様性の現状と目標となります。生の情報を集約するシステムが大事だと思います。

<会長> 委員皆さんの得意分野がわかったところで、密に意見交換をして地域戦略に盛り込みたい取り組みなどの意見を集約したいと思います。後ほど事務局より皆さんの活動内容等を記入するためのフォーマットをお送りいたします。次回の観察会を目処にお願いいたします。

次回協議会は9月の本日と同様に午後の時間帯で、決まり次第ご連絡致します。観察会につきましては、7月24日から前後に変更します。

本日の協議会はこれで終了いたします。皆さんお疲れ様でした。